

1 がらくた学級の奇跡



- ① パトリシア・ホ・ラッコ/作
入江真佐子/訳
- ② 小峰書店
- ③ 1500円
- ④ E

学習に障害のあるトリシャは、新しい学校でも特別学級に入ることになり、がっかりします。けれど、そこで出会ったのは素晴らしい先生と仲間たちでした。「がらくた学級」と呼ばれていたクラスの子どもたちが、つらいことや悲しい経験を乗り越え、自分の可能性を信じてチャレンジしていく姿に勇気をもらえる絵本です。

2 ひまなこなべ アイヌのむかしばなし



- ① 萱野茂/文
どいかや/絵
- ② あすなろ書房
- ③ 1400円
- ④ E

アイヌは、北海道や日本のあちこちにずっと昔から住んでいる人たちのことです。アイヌの人たちは、いろいろなものに魂が宿っていると信じてきました。なかでも熊はアイヌの人たちにとって特別な存在でした。これは、遠い昔から語り継がれてきたアイヌの昔話です。

3 干したから…



- ① 森枝卓士/写真・文
- ② フレーベル館
- ③ 1400円
- ④ E

普段の食卓にも干した食べ物が並ぶことがあります。が、「なぜわざわざ食べ物を干すのだろう。」という疑問に分かりやすく答えてくれる一冊です。これを読めば、食べ物を干すとどんな見た目になるのか、食べ物を干すことでどんな効果もたらされるのか等について学ぶことができます。

3 警察犬になったアンズ 命を救われたトイプードルの物語



- ① 鈴木博房/著
- ② 岩崎書店
- ③ 1300円
- ④ 31x016

皆さんは「警察犬」と聞いた時どんな犬種を思い浮かべますか。シェパード等強そうな犬が思い浮かぶのではないのでしょうか。この物語の主人公のアンズは、トイプードルです。警察犬に向かないとされる犬がどうやって警察犬になったのか。また、書名の「命を救われた」とはどういう意味なのか。ぜひ読んでほしい一冊です。

5 これから戦場に向かいます



- ① 山本美香/写真と文
- ② ポプラ社
- ③ 1600円
- ④ 31x016

内戦やテロの様子をジャーナリストの山本美香さんは危険を承知で取材し、我々子どもたちに伝えようとしました。この本では生と死が隣り合わせの中で生きている人々の姿、生々しいまでの戦争の様子が記録されています。平和の尊さを実感するとともに、人間の使命感や職業観をも考えさせられる一冊です。

6 ほくはアホウドリの親になる
写真記ひな70羽引っこし大作戦



- ① 南俊夫/文・写真
山階鳥類研究所/監修
- ② 偕成社
- ③ 1600円
- ④ 483015

アホウドリという鳥を知っていますか。アホウドリは、昔、日本にもたくさん生息していました。しかし、アホウドリの羽毛をとるために人間たちが乱獲し、今では数がとても減っています。そんなアホウドリを保護し、繁殖させる活動が描かれています。アホウドリの歴史と共に、生命の大切さにも触れることができます。

7 私が今日も、泳ぐ理由
パラスイマー 一ノ瀬メイ



- ① 金治直美/文
- ② 学研プラス
- ③ 1350円
- ④ 784016

生まれつき右腕が短いのは「個性」のひとつ。一ノ瀬メイさんは、何にでも物怖じせずに挑戦します。特に水泳では見事な成績をあげ、アスリートとして成長。けれど、周囲の人たちが投げかける思いがけない言葉や態度に触れることで、彼女は社会と障害者との関係に気づきます。感動すると共に、考えさせられる一冊です。

8 二日月



- ① いとうみく/作
丸山ゆき/絵
- ② そうえん社
- ③ 1300円
- ④ 914015

念願の妹には障がいがありました。両親は妹の世話に掛かりきりになり、友だちは障がいのある人に対して「かわいそう」と言い、もやもやとする主人公。妹は大好きだけど友だちに妹の事を打ち明ける事が怖い、そういう葛藤を丁寧に描いています。障がいやその家族の想いについて考えさせられる一冊です。

9 ゆず先生は忘れない



- ① 白矢三恵/著
山本久美子/絵
- ② くもん出版
- ③ 1200円
- ④ 913016

日本では、大きな地震が続いています。ゆず先生は、子どもの頃、阪神大震災を体験しています。その時の様子や思いを子どもたちに伝えていきます。他人事としてとらえていた子どもたちも、話をきくうちに震災について真剣に考え、助け合うことの大切さを感じます。生きることについて見つめ直すことのできる一冊です。

10 リトル・ダンサー



- ① 田村理江/作
君野可代子/絵
- ② 国土社
- ③ 1400円
- ④ 914016

英太は、ちょっと太めの男の子。なんでもできる友だちと自分を比べて、努力なんて無駄だと思っていました。ところが、ひよんなことからバレエを習うことになった英太は、戸惑いながらも踊る楽しさに目覚めていきます。思わず応援したくなる、友情と成長の物語です。

11 釣りに行こう！



- ① 高橋秀雄/作
福田岩緒/絵
- ② 文研出版
- ③ 1300円
- ④ 914016

いとこのお兄さんとイワナを釣った楽しさが忘れられず、釣りを始めたくてしかたがなくなった佑太。クラスの友だちや今までのこし苦手だったおじいちゃんまで巻き込んで、釣り仲間はどんどん増えていきます。本を読んで勉強したり、道具をそろえたり、工夫して作ったり。釣りのワクワク感が伝わってくるお話です。

12 まんぷく寺でまっています



- ① 高田由紀子/作
木村いこ/絵
- ② ポプラ社
- ③ 1200円
- ④ 914016

万福寺の息子・裕輔の将来の夢は「マンガ家」で、そのため跡取りといわれるのが嫌でした。しかし、同級生の野々下美雪と仲良くなり、また檀家の人たちと交流するにつれ自分の中の「死」や「寺」への考え方が変化していきます。自分の将来について考える裕輔にも注目です。

13 つくしちゃんとすぎなさん



- ① まはら三桃/作
陣崎草子/絵
- ② 講談社
- ③ 1400円
- ④ 917015

学校の帰り道にあるのは、魔女の家と言われてますが……。魔女の家に住んでいるのは、すぎなさん。でもすぎなさんは、魔女なんかではありません。近所に住むおばあさん。知り合った二人は一緒にお茶を飲んだり、お互いの悩みを相談したりして交流を深めていきます。年の離れた二人の交流が気持ちを和ませてくれるお話です。

14 空にむかってともだち宣言



- ① 茂木ちあき/作
ゆーちみえこ/絵
- ② 国土社
- ③ 1300円
- ④ 914016

ある日、隣の家に引越して来たのは、ミャンマーから来た家族でした。主人公のあいりは、女の子ナーミンと直ぐに打ち解け仲良くなりますが、クラスではトラブルが起きてしまいます。ナーミンはクラスの児童と仲良くなれるのか？

国際理解・国際交流について考えさせられる一冊です。

15 さかさ町



- ① F. エマーソン・アンドリュース/作
ルイス・スロートキン/絵
小宮由/訳
- ② 岩波書店
- ③ 1400円
- ④ 937015

タイトルのとおり、主人公の2人は「さかさ町」に行くことになるのですが、そこでは色々なものが通常とは反対になっています。「さかさ」にすることで、意外な発見があり、楽しく読めるだけでなく、世の中の仕組みやルールに対する示唆に富んだ物語です。